

平成30年度「測量の日」における功労者感謝状の贈呈について

国土地理院では、測量・地図に対する国民の一層の理解と関心を高めることを目的として、平成元年度から、測量・地図に関する普及・啓発に顕著な功績のあった個人又は団体に対し国土地理院長から感謝状を贈呈しています。

今年度は、以下の1個人・2団体の方々に感謝状の贈呈を行います。

(個人・団体五十音順 敬称略)

【個人】

◆^{よしかわ}吉川 ^{しん}真 (大阪工業大学名誉教授)

平成22年5月から2年間地理情報システム学会会長を務めたほか同学会関西支部長として、関西地域のみならず日本全国におけるGISの活用推進の主導的役割を担って活動をされている。

特に、東日本大震災発生の影響で東京でのG空間EXPOの開催が中止になった平成23年度には、今後の継続的な地理空間情報活用推進の取り組みの必要性から、関西地域でG空間EXPOと同様のイベントを行う関西G空間フォーラムを発案し、平成29年度までに関西地域の2府4県を巡り7年間継続で実施されている。

また、平成23年10月には、大阪工業大学を会場とした伊能図全国巡回フロア展の開催にも関わり、伊能図の展示を通して、子どもから大人まで測量や地図に関する興味・関心を呼び起こした。さらに、平成27年度には関西地域の産業界、学界、官庁が連携して活動を行う「地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会」設立に中心的な役割を果たされた。

このように、吉川氏は関西地域における継続的な地理空間情報活用推進、GISの普及・啓発に多大な貢献をされておりその功績は極めて大きい。

【 団 体 】

◆^{ぎふけんとしょかん}岐阜県図書館（館長 鍋島 寿）

岐阜県図書館は、平成 7 年から県内の小・中・高・特別支援学校生を対象に、児童生徒の自主的な研究活動を奨励し、地図に関する興味や関心、活用能力を高めることを目的に「児童生徒地図作品展」を開催しており、今年で 24 回目を迎える。

同館では、作品展の募集が始まる直前の夏休みに、小学校低学年と小学校高学年・中学校に区分して、「夏休みわくわく地図教室」という講座を開設し作品展の応募につなげている。

また、「児童生徒地図作品展」終了後には岐阜県知事賞や岐阜県図書館長賞などの入賞作品や入選作品の写真と講評などをまとめた記録集を作成し、岐阜県の小・中・高・特別支援学校の全校に配付している。さらに、美濃加茂市や岐南町などの市町村の図書館において入賞作品の展示も実施している。

このような活動は、児童生徒に地図への興味を抱かせ作品展の普及・啓発につながり、岐阜県図書館から推薦された作品は、全国児童生徒地図優秀作品展で大臣賞を 11 年連続受賞している。また、これらの活動を通して地域における地理・地図教育の発展にも大きく貢献するものであり、その功績は極めて大きい。

◆^{とくていひえいりかつどうほうじん}特定非営利活動法人 ^{ましげさんどうかい}増毛山道の会（会長 渡邊 千秋）

増毛山道の会は、平成 20 年に設立し、当時笹藪に埋もれていた約 160 年歴史を持つ増毛山道の位置を特定するため、独自に空中写真撮影や地権者と交渉をしながら笹刈りを行うなどの活動を進め、平成 28 年 10 月に全線 32km の復元を果たすとともに、電子国土基本図に掲載するためのルート確定に協力をされた。

また、復元作業の際には、明治期に北海道に設置された一等水準点のうち、最も標高の高い所に設置した点を含む 9 点が山道沿いに現存していることを確認し、同会自らこれらの水準点に説明板を設置し、平成 23 年度から北海道留萌振興局と連携して行っている体験トレッキングの参加者に水準点の意義や役割を説明するなどの活動を実施している。さらに、市民向けフォーラム、中学生を対象とした体験課外授業などのイベントにも取り組んでおり、主なテーマの 1 つとして、実際的水準点標石や水準測量に関するパネル等の展示、当時の水準測量から現在に至る測量技術の変遷に関する講演などを行っている。

これらの活動を通じ、同会は登山者や一般市民、生徒・教職員などへの測量・地図の重要性の普及・啓発に多大な貢献をされている。